

風化させない

北但大震災の記憶

5月15日から24日まで、豊岡稽古堂市民ギャラリーで、写真パネルなど約60点を展示した、北但大震災メモリアル写真展を開催しました。

震災で倒壊、焼失したまちの状況や救援活動など、当時の様子をうかがい知る写真パネルに加え、救助よりも消火を優先し、消火後に58人を救出した「模範的な行動」として語られている震災記念碑のパネルも展示しました。

本市は、震災の記憶を風化させることなく、防災・減災対策に生かし、後世に伝えていきます。

《問合せ》防災課 ☎23-11111



▲初めての展示となった田結村の震災記念碑のパネルを見入る来場者。北但大震災の記憶を心に刻む

性別で機会や役割に差がある

地域を変えるために

5月20日、豊岡市民プラザで「多様でリベラルなまちを創るシンポジウム」を開催しました。

ジェンダーギャップ(性別による機会等の格差)について、関西学院大学客員教授の大崎麻子^{あさこ}さんの講演後、中貝市長らがパネルディスカッションを行いました。

本市は、人口減少の最大の要因と考えられるジェンダーギャップの解消に向けた取り組みを進めていきます。

《問合せ》ワークイノベーション推進室 ☎21-9004



▲大崎さんの司会で女性活躍の有識者、実践者と中貝市長が「女性にも魅力ある地域社会を創るには?」をテーマに討論



市政 ニュース

主な市政の動き

【5月】

- 15日・春季市政懇談会(日高、21日・出石、27日・城崎、29日・竹野)
- 18日・コウノトリ但馬空港開港25周年記念式典
- 20日・「ビクトリア大学日本語コミュニケーション講座」の受入れ(～30日)
 - ・ドイツポット連盟とパートナーシップ契約
- 29日・「チャレンジデー2019」参加
- 30日・兵庫県消防防災航空隊合同訓練

【6月】

- 1日・植村直己冒険賞授賞式・記念講演会
- ・豊岡アートシーズン2019春夏期(～9月30日)
 - ・特別展「Sei-伊藤清永×伊藤晴子 親子展」(～7月28日)
- 2日・WWT副代表 デイビッド・リンダーさんを豊岡に招聘(～6日)
- 7日・市議会定例会開会(～7月2日)



中学2年生が

地域に出掛けて職業体験

6月3日から7日までの5日間、市内の中学2年生674人が、市内の事業所222カ所で、地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」を実施しました。

生徒たちは、農林水産や販売、芸術創作、福祉など、普段学校生活ではできない体験に挑戦。最初は戸惑っていた生徒も、地域の働く人々と共に過ごすことで、感謝の心や創造性を育みま

した。
2 《問合せ》こども教育課 ☎23-1145



▲市役所防災課での受入れ。市職員と地下式消火栓の点検をする生徒

豊岡に居ながらにして

世界とつながる音楽祭

6月4日から9日まで、子どもたちが豊岡で世界と出会う音楽祭「第6回 おんぷの祭典」を開催しました。

小学校10校での訪問コンサートや就学前の子どもたちを対象にした演奏会の他、市内5カ所で街角コンサートなどを開催。最終日には、市民会館で、ヴァイオリン解体ショーやファイナルコンサートをを行いました。

子どもをはじめ多くの市民がクラシック音楽に触れる音楽祭となりました。

《問合せ》生涯学習課 ☎23-0341



▶新企画のヴァイオリン解体ショー。ヴァイオリン外科医こと中澤宗幸さんが構造や音の出る仕組みを説明

中貝市長の徒然日記 ⑭

コウノトリは空に帰ったけど

コウノトリ野生復帰に関する市民アンケートの結果を見ると、満足度は高い一方、今後の重要度の認識はそれ程でもありません。要するに、「よくやった。もうよかろう」といった感じでは。

野外のコウノトリは100羽を超えました。まちの至る所で、普通にコウノトリを見られるようになりました。冒頭のような意識は、ある意味当然かもしれません。でも、

ぼくたちは、本当に目的を達成したのでしょうか？

飼育員だった松島興治郎さんは、かつてこんなことを言われました。「昔は、川の水より魚の方が多かった」

そんな馬鹿な。が、それくらいなのだ。ぼくたちは、いったい何を失ってきたのか。その答えが年配者の記憶の中にあるはず。そこで、金沢大学准教授の菊地直樹さんに、ご自身が過去(2002年)にされた高齢者インタビューの中から、関連部分を拾い上げ

ていただきました。読むと、それは驚くべきものでした。

「増水したらコイが何十本も群れを成して上がってくる。ナマズが何十、何百と。水が見えないほどフナの背中が連なっていく」

「溝を堰いたら上に行けんでしようが。ナマズがズズグダになってました。ほど、スコップでこうしてトラクン中、上げるぐらい」

「稲株を起すごとに、ドジョウがウワァー、ジュワーとおった」

「溝に入って草刈りしとって、魚がドンドンって当たってこけるほど」

「祟りがあるかと思うほど、捕りました」

当時の川と水路、田んぼの様子、生き生きと伝わってきます。紛れもなく、かつて豊岡にあった自然です。

「妹が、70近いけど、姉ちゃん魚捕り行きてえな、魚捕り行きてえな、今でも言います」。その命に満ちた世界をぼくたちは失い、まだ取り戻してはいけません。コウノトリは空に帰ったのだけれど。